

立ち読み版

オープン スカイ時代の

航空と



中谷秀樹
Hideki Nakatani

情報システム

OPENSKY

同友館 Aviation and information system of the opensky era

はじめに

我が国は古来より海外との交流により、変革を遂げてきました。弥生時代の水稲耕作伝来、弥生から古墳時代の漢字伝来、飛鳥時代の律令制度伝来、近くは明治維新の西洋文明伝来等、様々な影響を受けて日本の文化が形成された歴史を振り返ると、今後の発展にも海外との交流が欠かせないことを疑う余地はありません。21世紀を迎え2008年に観光立国の推進を担う観光庁が設立されたことは、世界平和を願う我が国にとって大きな前進となりました。今後、少子高齢化が進む日本の繁栄は、海外との交流と協調により実現されることが期待されます。周囲を海に囲まれる日本の海外交流は主に航空輸送に依存しています。

世界の民間航空輸送の歴史は浅く、観光立国を推進する上で多くの課題を抱えています。従来アウトバウンド中心であった日本の国際観光はインバウンドの拡大による相互往来、ツーウェイの均衡を図ることが重要です。その結果、国の隔々まで国民等しく外国人とのかかわりが密になり、他国との相互理解の促進と活発な文化の交流により、平和な国際社会の礎を築くことができます。若者の海外旅行離れが懸念されるなか、2012年は20歳～24歳の海外渡航が前年対比15%拡大し、21世紀に入り、初めて邦人海外渡航者数が1,800万人を突破したことは慶ぶべきことで、更なる拡大を歓迎するところです。

世界では今、年間30億人の人々が航空機を利用し、今後急速な増加が予想されます。そこで、本書では観光立国の推進に必須となる航空輸送事業の歴史と現状を理解し、今後の観光の発展に不可欠なGDSの現状と情報システムの役割を確認し、旅行流通システムの将来を考察します。観光立国を目指す我が国で観光のプロフェッショナルを志す学生にとって必読の書であり、また現在すでに航空業界や旅行業界で実務に携わるビジネスマンが明日の情報戦争を生き抜くために不可欠な書であります。

出版にあたりご指導いただいた日本国際観光学会会長、東洋大学教授松園俊志先生、前会長の流通経済大学教授香川真先生、航空輸送関連共著でお世話になった流通経済大学教授三田譲先生、流通科学大学教授坂巻嘉孝先生に感謝いたします。

平成25年3月1日

著者 中谷 秀樹

はじめに..... i

第1章 観光立国

1. 平和の世紀.....	1
2. 日本と諸外国との交流.....	4
3. 観光立国の理念.....	5
4. 観光立国の掲げる目標.....	7
5. 観光がもたらす経済効果.....	9
① 日本の観光経済.....	10
② 日本の観光消費と国際比較.....	11
③ 観光の雇用効果.....	12
④ 生産波及効果と付加価値効果.....	13
⑤ 税収効果.....	14

第2章 航空輸送事業

1. 飛行機の発明と発展.....	18
2. 航空輸送に関する国際間の取り決め.....	25
3. 航空輸送事業の保護育成.....	28
4. 航空規制緩和法 (Airline Deregulation Act) の成立.....	30
5. CRS 規制法の成立.....	33
6. オープンスカイ政策.....	33
7. 日本とヨーロッパの歴史.....	35

第3章 LCC の台頭

1. 自動車王国アメリカと航空輸送.....	39
2. LCC のビジネスモデル.....	42
① 空港の折り返し時間を10分とする (ten-minute turn).....	42
② 閑散空港 (第2空港) の使用.....	43
③ マルチ・タスクとホリデー・サービス・プログラム.....	44
④ ノンフリル・サービス.....	45
⑤ 機材の統一.....	45
⑥ ポイント・トゥ・ポイント (二地点間多頻度往復運航).....	46
⑦ LUV と社員第1主義.....	46
⑧ 独自の販売チャネル.....	47
⑨ 格安運賃.....	48

第4章 航空会社の経営

1. 規模の拡大.....	54
2. 経営改革.....	56
① 供給改革 (需給調整：機材のグラウンディング).....	56
② 流通改革 (コミッション・カット).....	57
③ ハブ空港の運営改革 (ローリング・ハブ).....	58
④ 運賃改革 (アンバンドリング).....	60
⑤ イールド・マネジメント (Yield Management) の導入.....	62
⑥ ダイナミック運賃の導入.....	63
⑦ ロー・コスト・モデルの採用.....	65
⑧ アライアンスによるグローバル展開.....	68

第5章 空港

1. 航空管制業務.....	73
2. 滑走路.....	75
3. 整備・補給施設、その他.....	77
4. ターミナル・ビル.....	77
① チェックイン業務.....	78
② 保安検査 (Security Check).....	79
③ 出入国検査 (CIQ : Customs, Immigration and Quarantine).....	80
④ トラフィック業務 (Traffic Services).....	82
⑤ オペレーション (Flight Operations).....	82
⑥ グランド・ハンドリング (Ground Handling).....	83
⑦ 出発前点検 (Preflight Inspections).....	84
⑧ 受託手荷物業務 (Claim Office).....	85
5. 次世代の航空管制システム (Next Generation Air Traffic Control System).....	86

第6章 観光産業の基幹システム GDS

1. 戦略的情報システム.....	95
2. CRS (Computer Reservations System) とは.....	100
3. PNR (Passenger Name Record) の基本要素と詳細情報.....	102
4. CRS の誕生.....	104
5. 旅行会社への CRS 展開.....	107
6. CRS の偏向表示と排他的使用.....	109
7. CRS 規則の導入.....	116
8. CRS 規則の撤廃.....	119
9. MIDT の活用.....	121
① 運航計画.....	121

② 市場分析	123
③ 航空券発券比率	128
④ 収入保全管理 (Revenue Integrity)	130
⑤ ラストミニット・セール	132
⑥ 収益管理	134
10. GDS への変貌 (Global Distribution System)	136
11. 航空運賃決済システム	138

第7章 オンライン・トラベル・エイジェンシー(OTA: Online Travel Agency)

1. インターネットの歴史	141
2. オンライン・トラベル・エイジェンシーの誕生	143
3. インターネット旅行サイトの分類	145
4. インターネット第2世代の技術革新	147
5. OTAのビジネスモデル	151
① フィー・ビジネス	151
② 広告収入	151
③ マーチャント・モデル	151
④ ダイナミック・パッケージング	152
⑤ オペク・モデル	152
⑥ ディール・パブリッシャー	152
⑦ ワン・トゥ・ワン・マーケティング (One to One Marketing)	152
⑧ ラストミニット・セール (Last-minute Sale)	153
⑨ BTS (Business Travel Solution)、TMC (Travel Management Company)	153
6. チャンネル・シフト	154

第8章 旅行流通システムの将来

1. GDSを代替するシステム (GNEs: GDS New Entrants)	157
2. GDSの課題	159
3. スーパー PNR	160
4. 頓挫したジェット・ストリーム	162
5. 企業出張業務支援 (BTS: Business Travel Solution)	163
① BTSの仕組み	165
② 主な機能	166
6. ビッグ・データ	168
7. GDSの将来を決定するイノベーション	169

おわりに	171
参考資料	173
著者紹介	175